

# 猪名川の自然を守ろう！

—猪名川の外来植物対策ハンドブック—



発行  
国土交通省近畿地方整備局  
猪名川河川事務所  
(平成 25 年 3 月)

## はじめに

このハンドブックは、猪名川の自然環境についての基本を知ってもらい、外来植物の現状や対策の必要性を学んでもらうことを目的に作りました。

勉強編では、簡単な説明を行ったあとに、質問をしています。それに答え、次のページの回答や解説を読むことで、より一層深い知識が得られるように工夫しています。ハンドブックは持ち出して、猪名川の様子を見ながら読めばより理解しやすいと思います。

### ◆勉強編

猪名川の形、自然な場所と人が作った場所 \_\_\_\_\_ 1

低水部をよく見てみよう！ \_\_\_\_\_ 3

川にはえる草花 \_\_\_\_\_ 5

外来植物は何が悪いの？ \_\_\_\_\_ 7

外来植物を増やさない、広げない \_\_\_\_\_ 9

### ◆実践・図鑑編

猪名川の外來植物対策 \_\_\_\_\_ 11

アレチウリ撲滅作戦、実践方法！ \_\_\_\_\_ 12

猪名川の外來植物【広がらないよう対策が必要な植物】 \_\_\_\_\_ 14

猪名川の在來植物 \_\_\_\_\_ 20



カワラナデシコ



ミヤコグサ



ヨモギ



イタドリ



アキノノゲシ



ヒメガマ



ヤナギタデ



ミゾソバ



セリ

オギ

秋になると銀色の穂をなびかせます。猪名川では広く分布していますが、外来植物に押されてきています。



左：オギ原は一面銀色。  
中：オギの穂。ススキにそっくり。  
右：オギ原をすみかとするカヤネズミ。



ツルヨシ

流れのある水辺で見られます。ツルヨシが広がっている場所は、鳥類や魚介類にとってはなくては大切なすみか。



左：茶色く冬枯れしたツルヨシ。  
中：水にせり出すように生育する。  
右：ヨシ原に来るオオジュリン。冬の渡り鳥。



ヨシ

流れのない水辺などで見られます。感潮区間ではヨシが生えている場所で干潟が表れる所がある。ヨシはカニや小魚のすみかとして利用されます。

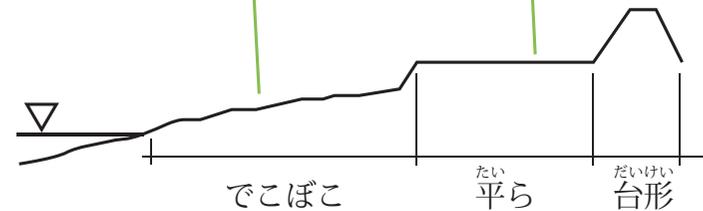


左：一面にヨシ原が広がっている。  
中：秋、穂がでた様子  
右：干潟で生息するクロベンケイガニ。



写真は、桑津橋から北がわの猪名川を見たところです。見なれた猪名川のけしきですね。この写真をよ〜く見ると、猪名川の「形」は、下の図のようになるとわかります。

右側から、跳びばこのような台形の場所、平らな場所、でこぼこな場所、そして川に行きあたります。



いながわ よこ み かたち  
猪名川を横から見た形

ここで質問！



上の図の猪名川の形の中には、人が工事をして作ったものと、もとの猪名川本来の自然な環境とがあります。川の場所のうち、本来の自然な環境はどこでしょうか？

- A 台形の場所
- B 平らな場所
- C でこぼこな場所

右の答えを選んで、次のページを見てね

A 台形の場所

B 平らな場所

C でこぼこな場所

X プグ〜

A 台形の場所

大雨の時でも、川の水が町へとあふれないようにするために、土を盛り上げて作ったもので「堤防」といいます。人工的なものですが、土手の斜面は、堤防の安全を見守るための草刈り管理のもと、シバやチガヤなど草が生えています。この場所は、都会では少なくなった草原となり、いろんな生きものがあります。



堤防に群生しているのはチガヤです。たくさんの野草や昆虫が生息しています。

X プグ〜

B 平らな場所

洪水時の川の水をスムーズに流したり、グラウンドとして利用するために、低水部の上に土を盛って作られたもので「高水敷」といいます。猪名川では1975年頃から広い高水敷が整備されるようになりました。今は、国が管理している区間のほとんどで高水敷が整備されています。



スポーツやイベントに利用されます。下には本来の自然があったことを覚えておいてね！

◎ピンポ〜ン

C でこぼこな場所

正解はこの低水敷。川の水の流れの影響を受け、砂や石、湿ったり、乾いたりといういろんな環境ができる場所で「低水部」といいます。それぞれの環境には、その場所を好む植物や動物が数多くすんでいます。大都市の中では、猪名川の低水部は残された貴重な自然環境です。



猪名川の中にも美しく、たくさんの生きものが住む環境が残っています！

メリケントキンソウ

キク科・越年草  
南アフリカ原産

春 夏 秋 冬  
★ ● 枯



- ・トゲのある果実
- ・グラウンドの芝地に生育



アレチハナガサ

クマツヅラ科・多年草  
南アメリカ原産

春 夏 秋 冬  
● ★ 枯



- ・四角い茎と対生の葉
- ・乾燥に強く、礫原などに侵入



シナダレスズメガヤ

イネ科 ・ 多年草  
南アフリカ原産

春 夏 秋 冬  
● 枯



・ 2mm幅しかない細い葉  
・ 礫原に生育



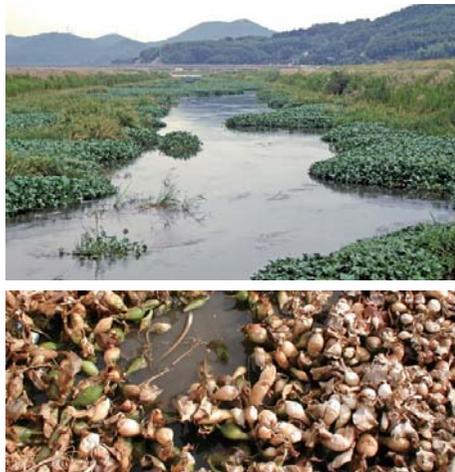
ホテイアオイ

ミズアオイ科 ・ 多年草  
南アメリカ原産

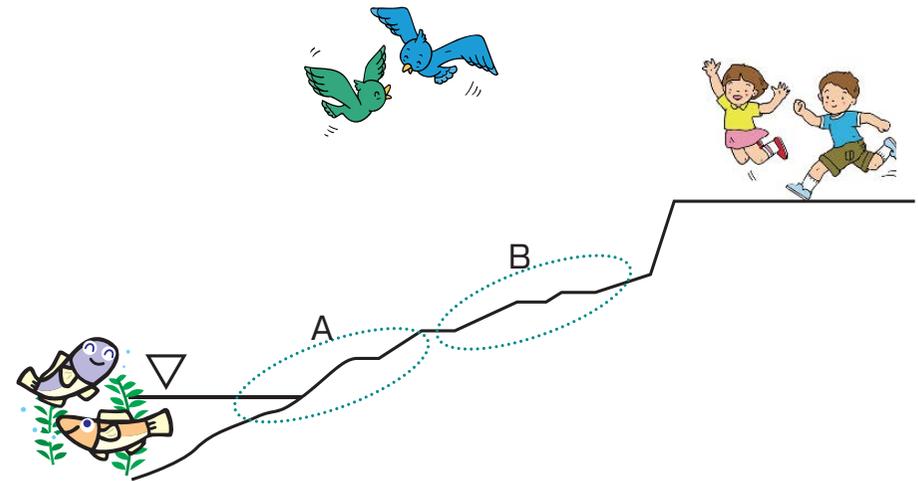
春 夏 秋 冬  
● 枯



・ しゃもじのような葉  
・ うすむらさきの大きな花



では、次に本来の自然環境ができる低水部についてよく見ていきましょう。一般に、高水敷は傾斜がなく平坦に整備されています。一方、自然な力のできる低水部はでこぼこしながらも、水際に向かって、なだらかに傾斜しています。



ヒント  
川の水面の高さは、いつも一緒かな？

ここで質問！

低水部の陸寄り(Aの部分)と水寄り(Bの部分)では、どちらの方がよりたくさんの草や木が生えるでしょうか？



A 陸寄り

B 水寄り

A 水寄り

B 陸寄り



ポタンウキクサ

特定

サトイモ科 ・ 多年草  
アメリカ原産

春 夏 秋 冬  
● 枯



・ 水面に浮いている  
・ 葉ポタンのような姿



オオフサモ

特定

アリノトウグサ科 ・ 多年草  
南アメリカ原産

春 夏 秋 冬  
● 枯



・ 水面上や水際で生育  
・ 葉は鳥の羽のよう



猪名川の本来の自然である低水部。ここにはさまざまな草花が生育しています。では、質問です。下に示した植物のグループの内、猪名川の低水部に生えている草花はどのグループでしょうか？

Aグループ



カワラナデシコ



ミヤコグサ



オギ



Bグループ



チューリップ



バラ



ヒマワリ

Cグループ



ククイモ



セイヨウカラシナ



セイタカアワダチソウ

Aグループ

Bグループ

Cグループ

## ◎ピンポ～ン

### A グループ

このグループは、大昔から猪名川に生育していた草花です。専門的には「**在来植物**」と呼びます。日本の風土、気候になじんで、ず～っと猪名川で生き続けてきた植物たちです。長年の間に、鳥や虫たちなど、いろいろな生きものたちとの共存できる社会ができあがっているのです。



写真は、瀬川に広がるオギとい  
う在来植物の群生地です。美  
いですね。

## X プグ～

### B グループ

このグループは花壇や庭に植えられている園芸植物のグループです。美しい色や形にするため品種の改良がされているので、種子はできにくくなっています。そのため、花壇などから抜け出して、猪名川まで生育範囲を広げることはありません。だから、Cグループの外來植物とは別に扱われます。



観賞用に改良されているため、  
色とりどりの花をさかせ、見る  
ひとたの  
人を楽しませます。

## ◎ピンポ～ン

### C グループ

このグループは「**外來植物**」で、猪名川にもたくさん生えています。外來植物とは、日本が江戸時代のおわりに、外国との交流が盛んになったことで、外国からやってきて、日本に定着した植物のことを言います。外來植物が全て黄色い花を咲かせるわけではありませんが、猪名川では広く群生する外來植物は、黄色い花のものが多いようです。



今や春の風物詩となった河川の  
菜の花。でもこれは、外国から  
きたセイヨウカラシナです。

## セイタカアワダチソウ

キク科・多年草  
北アメリカ原産

春 夏 秋 冬



・10～11月頃に咲く黄色い花。よく目立ちます。



## セイバンモロコシ

イネ科・多年草  
地中海沿岸原産

春 夏 秋 冬



・夏から秋に穂が出る  
・葉の真ん中に筋がある

セイバンモロコシと似た、在来種との見分け

・オギ

白い筋のある葉は、そっくりです。穂を見ると、すぐに見分けがつきます。

・ススキ

ススキは株（1箇所からたくさん茎が出てくること）になります。セイバンモロコシは株になりません。

# アレチウリ

特定

ウリ科 ・ 一年草  
 北アメリカ原産

春夏秋冬  
 枯

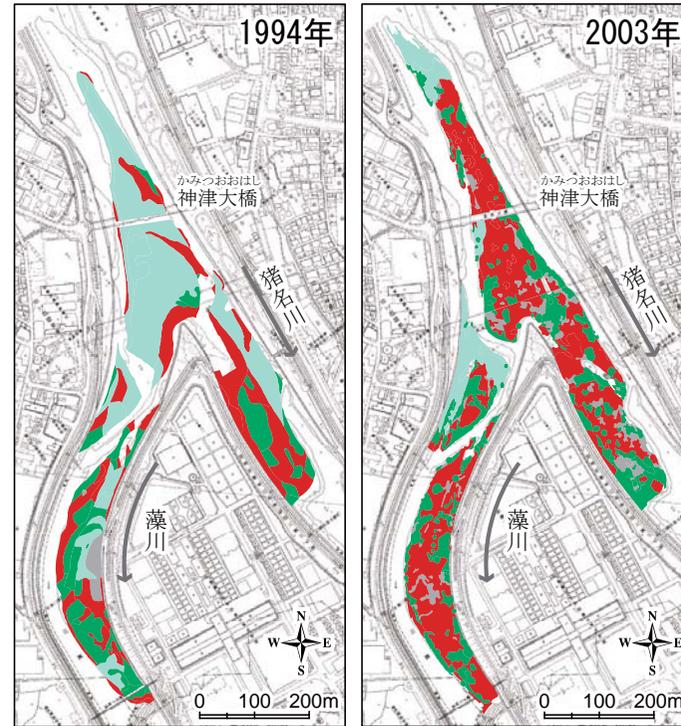


- ・こんぺいとうのような、とげとげの実
- ・五角形の葉
- ・ツル植物。よく生長し、大繁茂する

などが特徴



猪名川には、およそ 400 種類の植物が生育しています。そのうち、外国からきた植物「外来植物」は約 130 種もいます。また、外来植物の群生地は、猪名川の低水部の約 1/3 という広い面積を占めるようになってきました。最近、日本の本来の草花や生態系を守ることを目的に、外来植物を広げないようするための活動が活発になってきました。



1994年 2003年  
 1994年 2004年の外来植物の群生地がずいぶん増えていました。



■ 外来植物の群生地  
 ■ 在来植物の群生地  
 ■ 草のはえない河原

ここで質問！



外来植物が猪名川に入ってきたり、広く範囲をおおうと、何が問題となるのでしょうか？

- A 風景が変わってしまう
- B 在来植物がいなくなる
- C 動物もくらしにくくなる

A 風景が変わってしまう  
 B 在来植物がいなくなる  
 C 動物もくらしにくくなる

## ◎ピンポーン

### A 風景が変わってしまう

猪名川では、昔からオギやヨシという草が穂をなびかせる少し地味な風景がありました。それが例えばアメリカ大陸からやってきたキクイモが群生すると、派手な黄色い河原が変わってしまいます。



## ◎ピンポーン

### B 在来植物がいなくなる

外来植物が一面に広がるということは、もとあった在来植物がすむ場所が少なくなるということ。また、アレチウリのように上からおおいかぶさってくると、その下にいる植物は太陽に光が当たらなくなり、枯れてしまいます。あまりに広がりすぎると、猪名川から完全にいなくなるかもしれません。



ここまで広がると地面は光が届かず、他の植物は枯れてしまいます。

## ◎ピンポーン

### C 動物もくらしにくくなる

猪名川には、オギなどのはっぱを丸めて巣にする、カヤネズミというかわいいネズミがすんでいます。広いオギの原っぱが外来種におおわれてなくなってしまうと、動物との共存関係がこわれてしまい、カヤネズミもいなくなってしまうかもしれません。



カヤネズミはオギなどの葉で巣を作ります。



## 一緒に外来植物をやっつけてくれる方

# 大募集!

猪名川河川事務所では、このような外来植物に対する取り組みを、周辺市民のみなさんと一緒に進め始めたところです。これからも外来植物や対策方法などの勉強会と、川での抜き取りなどを計画しています。将来は、市民のみなさん、そして小学校などの協力のもと、猪名川の広い範囲で外来植物対策の活動を広げていきたいと考えています。

興味のある方、参加されたい方、大募集していますので、猪名川河川事務所までご連絡下さい!!



# アレチウリ撲滅作戦、実践方法！

アレチウリは、春に芽生え、ほっておいたら夏には一面に広がります。だから、春先の芽生えを抜き取ります。一年草だから、抜き取ってしまえばOKです。誰でもできる外来種対策です！その極意を紹介します。

## 1. 場所を決める！

猪名川の好きな場所、いつも遊ぶ場所、外来植物に覆われて欲しくない場所を選ぶことで、やる気がでてくる？！



## 2. 徹底的に抜く！

温度さえ合えば、春だけでなく10月中頃まで芽生えます。はじめが肝心。春のうちに徹底的に抜き取っておきます。



## 3. 続けて抜く！

初めのうちは、月に1度、5月、6月、7月と抜きます。そうするとあとは楽になります。でも、9月、10月には確認に行きましょう。できたら、次の年も続けましょう。

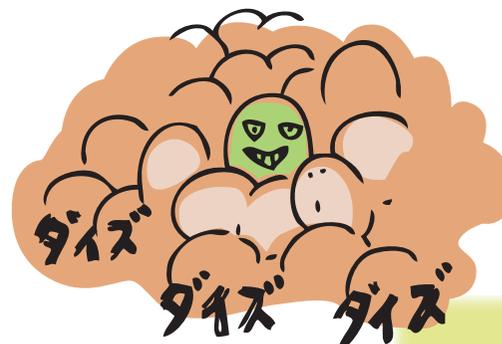


### 注意！

抜いたアレチウリには、種がついているかもしれません。種から広がらないように、きちんと片付ける必要がありますので、たくさんの方で行う時は、事前に猪名川河川事務所までご連絡下さい。

# 外来植物を増やさない、広げない

外国との交流が盛んになっている今、全ての外来植物を日本に入ってくることを防ぐのはとても難しいです。そのため全ての外来植物をなくしてしまうのはとても無理です。でも、外来植物の分布を広げない、増やさないということは私たちにでもできます。



外国から輸入する穀物などにまじって、入ってきたりします。

外来植物の侵入、拡大を防ぐのが外来生物法という法律です。



ここで質問！



では、猪名川で遊んでいる時、散歩している時に、問題となる外来植物を見つけた時は、どうしたらよいでしょうか？

- A きれいな外来植物は、家に持ち帰り植える
- B 引き抜いて川に流す
- C 引き抜いておいておく

A 家に持ち帰り植える

B 引き抜いて川に流す

C 引き抜いておいておく

X プグ〜

A きれいな外来植物は、家に持ち帰り植える

きれいな花なら家に持って帰りたいですね。でもそれが法律で指定されている植物だったら、違反になります。当然、持って帰ってもよい草もあるのですが、よくわからない時は持ち帰らないほうが良いですね。



写真の花は、オオキンケイギク。広がるのを防止するため、持って帰ると法律違反ですよ！

X プグ〜

B 引き抜いて川に流す

例えばナガエツルノゲイトウは、ちぎれた茎が水に流されて、たどり着いた場所で根を下ろします。また、ホテイアオイなどの水草は、川の流れに乗って分布を広げます。このような植物もあるため、抜いたあとは水に流さず、陸に置いておくようにしてください。



やっかいな水草の代表選手、ホテイアオイ。絶対に流さないでね。

◎ピンポン

C 引き抜いておいておく

外来植物を退治するためには、完全に枯らさなければなりません。ですので、抜いたあとは再び根付かないように、コンクリートのうへなどに置いたり、袋にいれるのが効果的。もし、お大人数で、たくさんの外来植物を抜くときは、ゴミ袋をたくさん持って行くといいよ。



猪名川河川事務所では、このような外来植物を少なくしていく取り組みを始めました。しかし、約 130 種類のすべての外来植物を相手にはできません。そこで特に問題となっている、または問題になるかもしれない外来種をえらび、次の 3 つの作戦でやっつけていこうとしています。

◆ アレチウリ撲滅作戦

猪名川でもっともやっかいなつる植物です。とてもはやく生育し、つるをどんどん伸ばして他の植物をやっつけてしまいます。まずはアレチウリをターゲットにどんどんやっつけましょう。



アレチウリの果実。とげとげで痛そう。

◆ 占有群落抑制策作戦

大面積で、猪名川の低水部を埋めつくしているセイタカアワダチソウとセイバンモロコシがターゲットです。しかし、すでに大面積で茂っているため、手作業では無理で、川の工事のときにやっつける予定です。



一面に広がるセイタカアワダチソウ

◆ 水際防止作戦

よその川では大問題になっていますが、猪名川ではまだまだ少ない、またはまだ入ってきていない外来植物です。やっつけるためには、最初が肝心、見つけたらすぐに取り除きます。ボタンウキクサなど 10 種類がターゲットです。



水際に浮いているホテイアオイとボタンウキクサ